

バックも含めてメタバース上に提示し、ケースシナリオ含めワークショップ形式として提示する。

2-3. カウンターパートとの連携

この GRIP プログラムでは、2022 年度はトライアルとしてシンビオシス国際大学(インド)と千葉大学(日本)とで、派遣・受入各 10 人計 20 人の学生交換を実施した。2023 年度はこれにレスター大学(イギリス)を追加した。さらに 2024 年度はモナシュ大学(オーストラリア)が加わり、参加学生人数も最終年度である 2026 年度には派遣・受入各 40 人、計 80 人となる予定としている。

以下、カウンターパートである、各大学との GRIP 開始までの交流の経緯と 2022 年度の調整・連携活動状況について記述する。

2-3-1. シンビオシス国際大学（インド）

2022 年度の振り返りとして、GRIP 推進室メンバーおよび SIU の GRIP 担当者らとで、5 月にオンラインミーティングを実施し、さらに 6 月には grip 推進室教員が SIU に赴き、対面にて 2023 年度実施に向けて検討を行った。2022 年度のトライアルでの実施を振り返り、2022 年度は初年度であり本プログラム採択から学生交換まで 4 ヶ月という非常に短期間での準備であったこともあり、十分な準備期間確保、リアルタイムでのオンラインオリエンテーション、学習目標の明確化、日本での演習のコンパクト化、JASSO や事後学習課題等の提出物の簡略化等の要望が SIU 側から出された。GRIP 推進室より、参加学生の多様化、効率的かつ遠隔での授業を可能とする LMS である Google Classroom へのログインの必須化と学生への支援、学生の体調不良防止としてインドでの演習時における空調設備のある車両使用、SIU から本学学生への単位認定・付与等を要望として提示した。その他、2023 年度の双方の学生交換日程、学習テーマ、緊急時の連絡体制等について検討・確認した。以降は随時、メールにて連絡を取り、調整を行った。

2-3-2. レスター大学（イギリス）

UL においては、2023 年 1 月に本学の GRIP 推進室メンバーが現地に赴き、学生交換実施のための検討を行った。同年 9 月には、GRIP 推進室より実務担当者が現地に赴き、派遣・受入双方について学生交換日程、学習テーマ、演習施設・組織、学生の滞り場所、緊急時の連絡体制、単位認定・付与等について検討した。その他、随時、オンラインミーティングならびにメールでの連絡・調整を実施した。

2-3-3. モナシュ大学（オーストラリア）

GRIP プログラムでは、モナシュ大学とは 2024 年度の学生交換実施を予定している。このため 2023 年 3 月には本学より GRIP 推進委員会メンバーが現地に赴き、現地の担当教員

らと学生交換実施の合意の下、うち合わせを行った。2023 年 9 月には本学研究員 1 名を現地コーディネーターとして位置づけ、2023 年 11 月には本学より実務担当者が再度現地に赴き、現地コーディネーターならびにモナシュ大学担当教員らと学生交換期日、学習テーマ等の検討、大学内ならびに学生寮の視察を行った。その後、現地担当教員の異動ならびに担当者変更もあり 2024 年 1 月には、2024 年度の学生交換実施に向け、オンラインミーティングにて改めて担当者、学生交換期日、学習テーマ等に関して確認ならびに検討を行った。2024 年度早々にもオンラインミーティングを実施するなど、2025 年 11 月の同大学から本学への受入、2025 年 2-3 月での本学からの派遣実施を目処として調整を継続している。

2-4. ISL プログラム開発

ISL (Interprofessional Service Learning) は本 GRIP プログラムの中核である。3 つの部分から構成され、オンラインでの事前学習、パートナー大学所在地に渡航・滞在しての現地演習、オンラインでの事後学習となる。本項では主に、現地での演習であるフィールド演習について記述する。

2-4-1. フィールド演習の概要

GRIP プログラムでは渡航先の社会課題に焦点を当てる。参加学生が学習しやすいように教員からテーマを提示する。各国の GRIP プログラム担当教員や部署職員らが GRIP 推進室と検討しつつテーマを決定する。そのテーマに沿って、訪問施設や組織を選定し、組み合わせ、ブリーフィングの時間なども考慮し、スケジュールリングする。2023 年度の各国での学習テーマは以下の表の通りである。

表 9 各大学の参加学生の学習テーマと訪問施設・組織

Participants	Partner universities and location of on-site practice	Theme	Areas, organizations, facilities to visit/participate in
Chiba University students	Symbiosis International University (Pune, India)	Support for children and women in difficult circumstances	Village schools, NGOs supporting children and women in need
Chiba University students	University of Leicester (Leicester, UK)	Homelessness Support	Self-help groups, home care facilities, clinic, NPOs supporting people in need,
Symbiosis International University students And University of Leicester students	Chiba University (Chiba and Tokyo, Japan) <i>Students from the two universities formed three mixed teams. Participating students engaged in a field exercise on one of the three themes as a team.</i>	1. Homelessness Support	NPOs support people in need, visiting nursing stations, government labor and welfare centers
		2. Disaster preparedness	University hospital (disaster base hospital), home care facility for handicapped, town walking with app
		3. Building Community Social Capital	NGOs providing gathering places for residents, children, etc., exercise classes by residents